

第3回 健康維持増進住宅研究委員会 議事要旨

1. 日時 平成20年10月23日(木)13:00～15:00
2. 場所 経済産業省別館 10階 1028号室
3. 出席者 村上委員長、坊垣副委員長、吉野部会長、田辺部会長、小泉部会長、伊香賀部会長、石川委員、坂部委員、坂本(功)委員、星委員、小谷部委員、東嶋委員、米田委員、岩前委員、佐々木委員(代理:藤村氏)、秋林委員(代理:森尾氏)、村木委員(代理:村関氏)、富田委員、菊池委員、坂本(努)委員、松川委員(代理:北垣氏)、渡邊委員(代理:横手氏)、和泉住宅局長
- [オブザーバー] 環境省、(独)都市再生機構、(独)住宅金融支援機構、(財)ベターリビング、(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター、(財)日本住宅・木材技術センター
- [事務局] 国土交通省住宅局住宅生産課、(財)建築環境・省エネルギー機構、(株)野村総合研究所

4. 議事

- (1) 部会の活動報告
- 1) 健康影響低減部会
 - 2) 健康増進部会
 - 3) 設計部会
 - 4) 健康コミュニティ推進部会
- (2) 普及促進委員会活動報告
- (3) 質疑及びフリーディスカッション
- (4) その他

5. 議事概要

議事に先立ち、国土交通省和泉住宅局長、村上委員長より挨拶があった。

[和泉住宅局長挨拶]

発足以来1年半が経過し、ちょうど中間点にあたる。この間、コンソーシアムが出来、シンポジウム等で広く情報発信を行い、また、今後は設計コンペや出版等が計画されている。日本の住宅政策の大きな思想的な中心になるような成果を期待している。委員の先生方も是非ご協力をお願いしたい。

〔村上委員長挨拶〕

「少子高齢化時代における健康サービス向上に向けた住宅・コミュニティのあり方」と題して、高齢化等の人口構造の推移、社会保障給付額の増加、健康維持増進住宅研究の推進体制（組織）、設計コンペ等に計画に関して説明があった。

(1) 部会の活動報告(資料5～8)

4部会の部会長(健康影響低減部会:吉野部会長、健康増進部会:田辺部会長、設計部会:小泉部会長、健康コミュニティ推進部会:伊香賀部会長)から、各部会の活動状況及び今後の課題等について報告があった。

(2) 普及促進委員会活動報告(資料9)

坊垣普及促進委員長から、今年度半年間の活動の状況(シンポジウム、コンソーシアムの設立等)、報道・学会での発表等について報告があった。

また、今後の予定として、設計コンペ、シンポジウム、出版等の予定が報告された。

(3) 質疑及びフリーディスカッション

- ・ 電磁波・放射線に関する研究計画及びラドン濃度の実態についての見解を教えて欲しい。

有識者委員からのレクチャーも受けており、放医研の全国調査研究があることも承知している。シックハウスほどの影響は無いと認識しているが、引き続きラドンの健康影響については、検討をしていきたい。

- ・ 当協会では、VOC や抗菌性の認証制度をスタートさせている。今後を見込んで、他で行っていると思われる健康関連の認定制度等も合わせて(一括して)、評価業務をやっていただけると有り難い。

系統的には健康影響低減部会あるいは健康コミュニティ推進部会が中心になってくるだろうが、次の機会に報告したい。

また、委員会では新たな制度を発足させるようなことは当面考えていない。

- ・ 健康影響低減部会の報告のうち、日本は浴槽での溺死が多いとの報告があるが、欧米ではバスタブに湯を張る習慣がないから、溺死は少ないのであろう。統計結果からは原因をいかようにも出さるので、対策を検討する時には留意されたい。

- ・ 健康維持増進という視点でのアイデアコンペというものが一般の建築コンペと異なり、興味深い。また、モデル住宅が計画されているが、設計コンペとの関連性や審査手法、及び効果についてお聞かせ願いたい。

コンペで出されたアイデアをそのままモデル住宅に採用することはないであろう。しかし、モデル性が高く、波及効果が期待できるもの等は成果に取り入れる。また、ユニークで個性が高いものでも全国に紹介をしたいと考えている。沢山の応募があることを期待している。

- ・ 設計部会でレベル「1」(最低限)、「2」(誘導的)「3」(個人の嗜好)の3段階で尺度を設定されたことは面白い。一方、一般に色々言われていることを専門のソフトで集計分析をされているが、その結果の活用先を教えてください。

イノベーションのもとになるようなキーワードを整理することが重要と考えている。アイデア創出のための種を部会の中で整理して、企業の取組のヒントになれば有り難い。

また、バリアフリーでも万人にとって好ましいかといえばそうではない。検討してきたが、

設計コンペの中で我々が気付かなかったことが出てくる事も期待する。部会活動の中で検討を進めて行く。

- ・ 2050年を視野に置けば、地球温暖化により死亡率の高いウィルス、感染症が広がる事が予測される、手洗い、うがいが大事であり、そういった視点も取り入れて欲しい。
- ・ 日本は寝たきりが多い。統計によれば、在宅死が多いほど寝たきりは少ない。日本の病院ではインフォームドコンセントが主流であるが、インフォームドチョイスが大事だと思う。住宅についても最終的にはインフォームドチョイスがいいと思っており、そのためには末期のケアを在宅においた建築設計、住まいのあり方も検討して頂きたい。
- ・ 家族が食卓を囲み、食事を楽しむこと等が豊かに生きる原点になる。そのために必要なリビングの役割は何か等、家族との関係を視野に入れた設計等の検討をお願いします。
- ・ 報告の中には、設計者等の専門家の役割と個人、家族の役割の分担を入れて頂きたい。
- ・ 以前はホルムアルデヒド中毒のような患者さんがたくさんいたが、最近では殆ど見なくなった。最近は米国等の会議でナノ粒子についても問題となっている。

(4)その他

ロードマップの説明及び今後の日程についての連絡があった。

- 1) 平成21年3月26日(木)14:00～シンポジウム
- 2) 平成21年3月30日(月)15:30～第4回委員会

以上